

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500013
法人名	医)さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するとの意見をよく聞きます。立地条件も良く、中庭にてゆっくりと過ごすこともできます。花を植えて、利用者様と一緒に水をあげたり、世話をしながら節感を味わっています。お花見や夏祭り・クリスマス会等季節ごとの行事を行っており、ご家族様も参加していただき、楽しい時間を過ごせるように努めています。イベントはご利用者様・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。消防訓練も定期的に行っており、ご家族の参加や近隣の方へ協力をお願いしています。医療機関の併設でもあり、ご家族様からは高い安心感を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、診療所と小規模多機能型居宅介護、通所リハビリテーションが併設しており、近隣には愛媛大学医学部附属病院やスーパーなどがあり、散歩時に買い物にも行けるなど生活するには最適な立地に恵まれている。母体の診療所と24時間体制で連携が取れており、利用者の健康管理や看取り支援、緊急時の対応など、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。管理者と職員との意思疎通が図れ、事業所は明るく感じられ、笑顔で穏やかに過ごせるようサービスの向上に努めている。また、職員教育にも力を入れ、外部研修に参加したり勉強会を積極的に開催したりするなど、さらなる質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)
氏名 武田 淳子

評価完了日 26年5月26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を全職員が共有し、毎日唱和することで意識づけをし、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した理念を大切に、事業所内に大きく掲示して朝礼時などに唱和し、職員全員で共有している。理念のほか、法人の理事長が毎年目標を作成している。ミーティング時などに職員間で理念が実践できているか振り返り、職員は思いやりを持ち、利用者の立場に立って考えたサービスが提供できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の小・中学校の運動会や文化祭の参加をはじめ、幼稚園の定期的な訪問・地域のボランティアの受け入れを行うことで、地域とのつながりに努めている。</p> <p>(外部評価) 定期的に事業所には幼稚園児の訪問があり、調査日にも七夕飾りを持って園児が訪れて歌を歌い、利用者や握手を交わしながら交流をするなど、利用者の嬉しそうな笑顔を見ることができた。小学校の運動会の玉入れに参加し、交流をしている。日頃から演奏やおどりなどのボランティアの訪問が頻繁にあり、交流を深めている。また、毎月発行する「菜の花だより」を商店や学校など地域に配布し、事業所が地域住民に認知されるよう努めている。</p>	幼稚園や小学校などのつきあいは盛んに行われているが、近隣住民にも目を向け、さらに事業所に気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いていく取組みを期待したい。また、地域に「菜の花だより」を配布するのと一緒に、運営推進会議等にも参加協力を呼びかけるなど、地域住民との繋がりや交流のきっかけになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所が取り組んでいる内容を月に1回新聞(菜の花便り)に盛り込み、家族や地域の方に配布している。また地域の行事に参加し、交流をもつ事で理解が得られるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常生活の様子や事業所での取り組み内容等を報告し、情報交換を行っている。サービス内容に関しての意見も参考にしながら、利用者が楽しく生活できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地元企業の社長、元教育長、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、併設されている小規模多機能型居宅介護と一緒に開催している。会議では事業所の活動や課題等を報告し、参加者と意見交換をしている。また、病気やリハビリの勉強会と一緒に開催する工夫をしており、参加者から好評を得ている。参加者に意見をもらいながらサービスの質の向上に繋げている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日頃から事業所の実情を伝え、相談している。意見を取り入れることで、協力関係の構築に努めている。運営推進会議にも参加してもらっている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告をするほか、利用者やヒヤリハットの相談をするなど、良好な関係を築いている。また、市や地域包括支援センター主催の研修等にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) マニュアルの作成や勉強会の参加をし、全職員が正しく理解するように努めている。必要であれば家族・利用者に同意を得て行っているが、身体拘束をしないケアをめざし、職員で話し合いを行っている。安全上外玄関の施錠のみ行っているが、家族・利用者には理解していただいている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを作成し、職員はミーティングなどで話し合い理解して、利用者に寄り添い見守りをしながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全面や衛生面を考え、不潔な行為などが見られる場合には、医師から説明を行い同意を得て行うようにしている。言葉での拘束にも気を配り、職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法のマニュアル作成や勉強会の参加を実施し、職員全員が理解し、注意しながら、ケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) マニュアルや研修を通じて制度の理解をし、対応ができるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて家族や利用者に対し、十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議での意見交換や匿名での意見箱を設置し、家族や利用者の意見を取り入れるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議への参加時に、利用者や家族は思いや意見を伝えることができる。面会時に家族に声をかけ、意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には「菜の花だより」に手紙を添えて利用者の様子を報告したり、電話して意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 代表者や管理者はミーティングや個別の面接での意見や提 案を聞き、反映させるよう努めている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングで管理者は職員の要望や意見を聞くよ う努めている。勤務時間やおやつ作りなど活発な意見や要 望が出され、その都度対応するよう努めている。管理者は 職員の意見を尊重し、働きやすいシフト組みをするなど職 員とコミュニケーションを図りながら職場の環境整備を大 切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員の質の向上を図るために、資格所得や勉強会への参加 を積極的に支援している。職員の努力を評価し、やりがい のある職場環境や条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間の研修計画を立て、職員の能力や力量に合わせ、参加 してもらっている。研修費用の援助も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や勉強会等で、同業者と情報交換できる場に積極的に 参加し、サービス向上につながるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 見学や申し込みの段階から、本人の状態を把握するよう努 めている。本人が困っている事や要望を聞き、安心感が持 てるよう環境や職員の対応にも配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の立場に立ち、時間をかけて話を聞くことで信頼関係が築けるように心掛けている。家族の思いや体験等、多様な価値観を受け入れるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、ケアマネージャーや他職種とも話し合い検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にして、利用者が孤独にならないように利用者の思いを見極め信頼関係を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には十分気を配っており、気兼ねなく過ごせるよう配慮している。菜の花便りの郵送と共に現状の報告を行い、イベント開催時等には参加してもらえよう声掛けをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の馴染みの人や場所を把握して外出支援を行ったり近況報告を行い、関係性が途切れないようにしている。 (外部評価) 親戚や友人、近隣住民などの訪問が頻繁にあり、職員は快く出迎えている。利用者の希望に応じて、馴染みの店へ買い物や外食などに出かけられるよう支援している。また、馴染みの美容室に訪問してもらったり、タクシーを呼んで美容室に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの感情、価値観等を尊重し、共同生活が楽しく送れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の他サービスへ移行される利用者もおられ、本人・家族の経過を見て必要に応じて相談等支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全職員が家族・利用者の考え方や価値観を理解し、希望に沿えるように努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりと向き合いながら、日常会話や表情、動作からくみ取り、思いや希望を把握するよう努めている。利用者は職員と1対1となる入浴時や居室で思いを言われることが多く、新たに知り得た情報は申し送り等で報告し、職員間で共有できるようにしている。毎月の職員会議で職員全員で話し合い、思いや要望に沿った利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や本人・入居前の介護サービスや医療機関の情報を収集し自分らしく過ごせるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 記録や申し送り等により出来る力を見極め、発揮できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) モニタリングやアセスメントを行い、現状の利用者の状態を把握したうえで、本人・家族・関係者とも話し合い、意向も取り入れながら介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者が自分らしく暮らせるよう利用者や家族の意向を反映して、介護支援専門員と利用者毎の担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。介護計画は家族等に説明し同意を得ている。毎月モニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。また、必要に応じて見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画に対するモニタリングを行い、日々の情報を活かし、状態の変化があった際には計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出支援等やボランティアの受け入れ等を積極的に行い、活動的な生活が送れるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 幼稚園の訪問が定期的であり楽しみにされている。地域の小中学校の運動会や祭り、文化祭には足を運んでいる。身体能力に応じて運動会のプログラムに参加される利用者もおられ、楽しく過ごせるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に家族や本人に希望を聞き、かかりつけ医・主治医 の確認を行なっている。家族の協力も得ながら、適切な医 療を受けられるよう支援し、情報の共有もできている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう 支援している。往診や緊急時に迅速に対応してもらえら ることから、利用者や家族が希望して母体の診療所をかかりつ け医へ変更することもある。週1回の往診や必要時の訪問 看護があり、急変時などにも対応ができる協力体制が整っ ている。また、歯科や皮膚科の往診もある。専門医も職員 が同行して受診することができ、安心して事業所を利用で きるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 母体である医療機関に、毎日利用者の状態を申し送って おり、必要であれば受診や訪問看護を受けられるように情 報を共有している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行って いる。	(自己評価) 入院時も含め、退院に向けて病院関係者と必要な情報交 換を行っている。近隣の医療機関主催の勉強会へは参加し 、関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に家族に説明し方針を共有している。状態変化のあ る時には医療との連携を密にし、家族や本人の意向も取り 入れた支援ができるよう日頃から話し合いを行っている。	
			(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成している。母 体の診療所と24時間体制での連携が取れているほか、訪問 看護を利用することができ、積極的な看取り支援に取り組 んでいる。利用者の状況の変化に応じて、利用者や家族等 の意向をその都度確認しながら、思いを受け止め納得のい く穏やかな最期を迎えられるよう支援している。また、看 取りなどの勉強会を開催し、職員への不安解消と意識向上 に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員による救命救急訓練を定期的に行っている。職員は各種マニュアルを読み込み周知徹底するよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練（内1回は消防職員による訓練）を行い、家族にも参加してもらっている。また近隣の方にも協力を呼び掛けている。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練では、実際に利用者も参加し避難している。定期的に防災器具の点検や使用方法、避難場所を確認するなど、職員の災害への意識づけをして防災意識を高め、利用者の安心安全な生活を守るよう災害対策に取り組んでいる。また、食料等の備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いには十分気を配り、利用者のプライバシーが守れるよう入室時にはノックや声掛けを必ず行うようにしている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快な声かけや入浴時などの羞恥心に気を配り、一人ひとりの人格を尊重した対応をするよう心がけている。特に居室は、利用者のプライベートな空間であり、入室時等にも気を配っている。また、職員には守秘義務の徹底を図り、書類等の管理にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉が出てこない利用者に対しても仕草や表情で見極められるように努めている。また筆談によるコミュニケーションも行い、自己決定できるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせ、職員側の都合で物事を行わないように、利用者優先という意識を持ち、利用者の意向を聞きながら、希望に沿えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々の体質や季節感、好み等を考慮し、利用者の希望を聞きながら支援している。外出時には普段と違ったおしゃれを楽しめるように気を配っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニューを食事前に説明し、会話をしながら楽しく食事ができる雰囲気作りを心掛けている。食欲が出るよう盛り付けにも気を配り、個々の能力にあった形態で提供している。	
			(外部評価) 母体診療所の栄養士が献立を作成し、利用者の健康管理をしている。行事のある場合は利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供するようにしている。回転寿司やモーニングなどの外食に出かけ、食事が楽しめるよう支援している。現在は、食事介助が必要な利用者が増えてきたが、できるだけ職員は利用者と一緒に食事を食べるよう心がけている。また、利用者は食事の準備や片付けなどできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がバランスやカロリーを考え、メニューを作成している。水分はこまめにとるよう心掛けており、生活習慣に応じた嗜好品も取り入れている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の能力を見極め、本人の能力に応じ支援の必要な部分を介助するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレで排泄できるように支援している。なるべく排泄の失敗が少なくなるよう、定期的にトイレへの誘導を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。日中は利用者を誘導して、できる限りトイレでの排泄支援に努めている。また、利用者の状態に合わせてリハビリパンツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなどの対応をしている。2か所あるトイレは、車いすでもゆとりをもって使用できる広さが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表にて排便の有無を把握し、運動や水分摂取を促している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて入浴支援を行っている。拒否がある場合には、拒否の原因を考え、時間を掛けて対応している。日時の変更も行う等柔軟な対応に努めている。	
			(外部評価) 週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴できるよう対応している。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、無理強いせず気持ち良く入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制での介助や同性介助の希望に対応するなど、安全に入浴できるよう配慮している。また、リフトも設置されているが、現在使用している利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的には一人ひとりの生活習慣も大事にしながら、希望に沿った生活をしてもらっている。昼夜逆転の見られる利用者には夜間の安眠確保のために日中の過ごし方の見直しを行っている。温度管理や寝具にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服薬している薬について職員は把握しており、薬情もいつでも見れるようにしている。副作用や効能についても理解できるように努力している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人の要望を盛り込んだ外出支援も行っている。利用者の能力に応じ、家事等を手伝っていただくことで役割を持ち、張り合いや自信につながるような支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には屋外に出て気分転換を図っている。利用者の意向に沿った外出支援を行っている。家族にも協力をお願いし、出来るだけ外出する機会を持てるよう支援している。 (外部評価) 日常的に中庭にあるテラスで外気浴が行われている。併設されている診療所の理学療法士が訪問し、リハビリを兼ねて事業所周辺を散歩したり、デイケアに行けるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、買い物や外食など、少しでも多く出かけられるよう支援している。診療所の入っている建物の屋上で花火見学したり、お弁当を持って外出し、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出等でお金を使う機会を設け、利用者に支払いをしていただき、お金を使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやり取りは自由に出来るようになっており、依頼があった場合は支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者に居心地よく過ごしていただくよう、共有空間は、適度な飾り付けや季節の花を飾るなど生活感が持てるよう工夫している。昼夜の認識が出来るよう照明にも配慮している。</p> <p>(外部評価) 大きな窓から自然な光が差し込んでくる。床暖房が整備されており、冬でも暖かく利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮されている。リビングの天井は高く、開放感がある。壁には外出時の写真や季節の作品、園児からのお礼状が飾られている。また、整理整頓された空間にはソファが置かれ、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が安心し、共有の場でも居心地良く過ごせるように家具の配置を工夫し、スペース作りを行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 馴染みの家具や思い出の写真を持ち込んでもらい、本人にとって落ち着く場所として、居心地良く過ごせるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやタンス、洗面台、エアコンが備え付けられている。居室にはテレビや冷蔵庫など思い思いのものを持ち込み、孫の写真や生花を飾るなど、利用者一人ひとりの個性のある居心地の良い空間づくりをしている。以前は位牌を持ちこまれている利用者もいた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 家族や本人・リハビリとも相談しながら、能力に応じて安全に自立した生活ができるよう家具の配置等も必要に応じて変えている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500013
法人名	医)さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するとの意見をよく聞きます。立地条件も良く、中庭にてゆっくりと過ごすこともできます。花を植えて、利用者様と一緒に水をあげたり、世話をしながら節感を味わっています。お花見や夏祭り・クリスマス会等季節ごとの行事を行っており、ご家族様も参加していただき、楽しい時間を過ごせるように努めています。イベントはご利用者様・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。消防訓練も定期的に行っており、ご家族の参加や近隣の方へ協力をお願いしています。医療機関の併設でもあり、ご家族様からは高い安心感を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、診療所と小規模多機能型居宅介護、通所リハビリテーションが併設しており、近隣には愛媛大学医学部附属病院やスーパーなどがあり、散歩時に買い物にも行けるなど生活するには最適な立地に恵まれている。母体の診療所と24時間体制で連携が取れており、利用者の健康管理や看取り支援、緊急時の対応など、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。管理者と職員との意思疎通が図れ、事業所は明るく感じられ、笑顔で穏やかに過ごせるようサービスの向上に努めている。また、職員教育にも力を入れ、外部研修に参加したり勉強会を積極的に開催したりするなど、さらなる質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)
氏名 武田 淳子

評価完了日 26年5月31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 年頭に理事長より理念をもとにした目標がある。理念は毎日唱和し、職員一同意味を理解し実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した理念を大切に、事業所内に大きく掲示して朝礼時などに唱和し、職員全員で共有している。理念のほか、法人の理事長が毎年目標を作成している。ミーティング時などに職員間で理念が実践できているか振り返り、職員は思いやりを持ち、利用者の立場に立って考えたサービスが提供できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 定期的な幼稚園の訪問やお花見・夏祭り・クリスマス会等のイベントやボランティアの受け入れは恒例となっている。運動会や秋祭りなど地域の行事にも積極的に出かけ、地域の一員として生活できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 定期的に事業所には幼稚園児の訪問があり、調査日にも七夕飾りを持って園児が訪れて歌を歌い、利用者や握手を交わしながら交流をするなど、利用者の嬉しそうな笑顔を見ることができた。小学校の運動会の玉入れに参加し、交流をしている。日頃から演奏やおどりなどのボランティアの訪問が頻繁にあり、交流を深めている。また、毎月発行する「菜の花だより」を商店や学校など地域に配布し、事業所が地域住民に認知されるよう努めている。</p>	幼稚園や小学校などのつきあいは盛んに行われているが、近隣住民にも目を向け、さらに事業所に気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いていく取組みを期待したい。また、地域に「菜の花だより」を配布するのと一緒に、運営推進会議等にも参加協力を呼びかけるなど、地域住民との繋がりや交流のきっかけになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 菜の花便りを作成し、小中学校・郵便局・最寄りの駅などにも配布し、ホームの理解や認知症に対する対応方法なども伝えるように努めている。また実際に交流することで理解してもらえるように地域の行事に出かけるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 理事長・利用者・家族・市役所・地域包括センター・有識 者の方々に参加していただき、要望等意見交換を行い、 サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地元企業の社長、元教育 長、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得 て、併設されている小規模多機能型居宅介護と一緒に開催 している。会議では事業所の活動や課題等を報告し、参加 者と意見交換をしている。また、病気やリハビリの勉強会 と一緒に開催する工夫をしており、参加者から好評を得て いる。参加者に意見をもらいながらサービスの質の向上に 繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 市主催の勉強会にも積極的に参加し、内容については担当 の方にも相談し、意見をとり入れて頂くなど相談し、協力 関係を築いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告を するほか、利用者やヒヤリハットの相談をするなど、良好 な関係を築いている。また、市や地域包括支援センター主 催の研修等にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束についての理解をしており、必要時には ミーティング等で話し合い周知徹底している。必要時には 十分に説明し、同意のもとで最低限に行っている。玄関の 施錠については、外玄関のみ行っており、ご理解いただい ている。	
			(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを作成し、職員はミーティングな どで話し合い理解して、利用者に寄り添い見守りをしなが ら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全 面や衛生面を考え、不潔な行為などが見られる場合には、 医師から説明を行い同意を得て行うようにしている。言葉 での拘束にも気を配り、職員全員で意識しながら適切な対 応ができるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての勉強会に参加し、フィードバック等で全職員が理解している。特に言葉の虐待に関しては十分配慮するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度のマニュアルや勉強会の資料等いつでも閲覧できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約や変更時には十分に説明し、納得の上行っている。家族の不安や疑問点を払しょくできるよう時間をかけて話し合い、サービスの向上に反映できるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との日々の交流の中で希望や要望を把握するよう努めている。気楽な雰囲気作りを心がけ、家族にも希望を聞くようにしている。運営推進会議でも意見を取り入れ、話し合いを行い、家族や利用者の意見を反映できるように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議への参加時に、利用者や家族は思いや意見を伝えることができる。面会時に家族に声をかけ、意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には「菜の花だより」に手紙を添えて利用者の様子を報告したり、電話して意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 定期的なミーティングや、個別に面談を行うなど職員の見 意見を聞く機会を設け、より良いサービスが出来るよう努め ている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングで管理者は職員の要望や意見を聞くよ う努めている。勤務時間やおやつ作りなど活発な意見や要 望が出され、その都度対応するよう努めている。管理者は 職員の意見を尊重し、働きやすいシフト組みをするなど職 員とコミュニケーションを図りながら職場の環境整備を大 切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員個々の面接や聞き取りを行い、努力や実績を評価し、 働きやすい環境や条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間計画を立て、勤務にも配慮し、個々の職員の力量に応 じた研修の参加を積極的に実施している。資格取得や研修 費用の支援もあり、ケアの向上が出来るような体制作り に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをして いる	(自己評価) 連絡会・勉強会への参加や他事業所への訪問により、交流 を深め、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 見学や申し込みの段階から、本人の状態を把握するよう努 めている。本人が困っている事や要望を聞き、不安解消で きるよう環境や職員の対応にも配慮し、信頼関係が築ける よう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と面談し、不安なことや要望等について、時間をかけて話を聞くようにしている。サービス開始前より電話等において、状況について聞き取りも行うようにし、信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族や本人の置かれている状況を理解し、課題を分析し必要な支援を見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者本位の生活が送れるように個々の価値観を大切にしている。本人が出来る事をしてもらうことで、介護されるだけの立場にせずお互いに助け合い暮らしている関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の状態に応じ、外泊や外出をお願いすることで、家族も介護側としての立場だと認識してもらうことで、共に支えていく立場としての関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方や場所の把握をし、外出支援や面会しやすい環境作りに努めている。 (外部評価) 親戚や友人、近隣住民などの訪問が頻繁にあり、職員は快く出迎えている。利用者の希望に応じて、馴染みの店へ買い物や外食などに出かけられるよう支援している。また、馴染みの美容室に訪問してもらったり、タクシーを呼んで美容室に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の感情や価値観を尊重し、助け合いながら生活していけるよう利用者同士の関わり方には十分配慮し、支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 生活歴や環境を把握し、出来る限り希望に沿った生活が出来るよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来る限り意向や希望に沿った生活が出来るように、一人ひとりの生活歴や環境を把握するように努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりと向き合いながら、日常会話や表情、動作からくみ取り、思いや希望を把握するよう努めている。利用者は職員と1対1となる入浴時や居室で思いを言われることが多く、新たに知り得た情報は申し送り等で報告し、職員間で共有できるようにしている。毎月の職員会議で職員全員で話し合い、思いや要望に沿った利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族・知人の方々から生活歴等を聞き取り、職員が共有できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 現状にあった暮らしができるよう一人ひとりの心身状態や能力を把握しするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は本人・家族意向をもとに介護職やリハビリ等他職種の意見を盛り込みながら作成している。定期的にモニタリングも行っているが、状態変化がある場合は、都度話し合いを行い、介護計画の変更を行っている。	
			(外部評価) 利用者が自分らしく暮らせるよう利用者や家族の意向を反映して、介護支援専門員と利用者毎の担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。介護計画は家族等に説明し同意を得ている。毎月モニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。また、必要に応じて見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を観察し、状態の変化があれば、職員間で情報の共有を行い、見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の意向も聞きながら、本人の状態も加味しつつ、サービスの移行もふくめ、福祉や医療との連携を図り、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の祭りや運動会等には参加し、楽しめるよう支援している。事業所のイベントには声をかけ、交流が断ち切られないように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に家族の意向を聞き、かかりつけ医の確認を行な っている。医療機関が母体のため、連携は図れており、適切 な医療をうけられるよう支援している。必要であれば、家 族への協力依頼し、受診してもらっている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよ う支援している。往診や緊急時に迅速に対応してもらえ ることから、利用者や家族が希望して母体の診療所をか かりつけ医へ変更することもある。週1回の往診や必要 時の訪問看護があり、急変時などにも対応ができる協 力体制が整っている。また、歯科や皮膚科の往診もあ る。専門医も職員が同行して受診することができ、安 心して事業所を利用できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日利用者の状態を報告し、情報の共有を行って いる。母体である医療機関といつでも連絡・相談が できる体制ができており、適切な受診や看護が受け られるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 他病院への入院の際も面会をし、状態把握に努 めている。病院関係者とも電話や訪問などで情 報交換に努め、カンファレンスを行うなど早期 退院や治療に専念できるよう支援している。近 隣の病院の主催する勉強会にも参加し、関係 作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と 共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時から家族や本人に説明し、方針を共有 できるよう努めている。緊急時には入院の措 置をとることも理解してもらっているが、都 度希望を伺い、なるべく意向に沿うよう に支援している。 (外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作 成している。母体の診療所と24時間体制 での連携が取れているほか、訪問看護を 利用することができ、積極的な看取り支 援に取り組んでいる。利用者の状況の変 化に応じて、利用者や家族等の意向を その都度確認しながら、思いを受け止 め納得のいく穏やかな最期を迎えられ るよう支援している。また、看取りな どの勉強会を開催し、職員への不安解 消と意識向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は緊急時の対応等について、勉強会を行い、実践力を身につけるように努めている。マニュアルも作成しており、職員全員が理解するように、ミーティング等で話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回実施している。(1回は消防職員による訓練)夜間も想定し、職員の人数を減らした訓練も行っている。近隣の方にも協力を呼び掛けている。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練では、実際に利用者也参加し避難している。定期的に防災器具の点検や使用方法、避難場所を確認するなど、職員の災害への意識づけをして防災意識を高め、利用者の安心安全な生活を守るよう災害対策に取り組んでいる。また、食料等の備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室の際のノックやおむつ交換・更衣時には露出が少なく済むように配慮している。言葉遣いにも十分に注意して、誇りやプライバシーが損なわれないようにケアを行っている。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快な声かけや入浴時などの羞恥心に気を配り、一人ひとりの人格を尊重した対応をするよう心がけている。特に居室は、利用者のプライベートな空間であり、入室時等にも気を配っている。また、職員には守秘義務の徹底を図り、書類等の管理にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話や仕草から本人の思いをくみ取れるように努めている。利用者のペースに合わせ希望を引き出せるような声掛けを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は常に利用者のペースに合わせるよう意識し、「その人らしく」をモットーに楽しく過ごせるように支援している。日常の会話の中で趣味や何をしたいかを把握し実践できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 生活にメリハリをつけるために日中と就寝時は着替えをしてもらっている。希望者には定期的に散髪も実施している。外出時には普段と違った服装をしてもらい、おしゃれが楽しめるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳・調理の下準備等手伝ってもらっている。食欲が出るよう盛り付けにも工夫し、食事中も会話をしながら、楽しく食事できるように努めている。	
			(外部評価) 母体診療所の栄養士が献立を作成し、利用者の健康管理をしている。行事のある場合は利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供するようにしている。回転寿司やモーニングなどの外食に出かけ、食事が楽しめるよう支援している。現在は、食事介助が必要な利用者が増えてきたが、できるだけ職員は利用者と一緒に食事を食べるよう心がけている。また、利用者は食事の準備や片付けなどできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が食事のバランスやカロリーにも気を配りメニューを作成している。食事量についても栄養士のメニューを基本とするが、健康状態や排便状態・体重の増減も配慮している。水分についてはお茶やスポーツドリンク等をゼリーにしたりチェック表も利用しながら把握するように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方、全面的な介助が必要な方等、その方の能力に応じたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導やおむつ交換を行っている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。日中は利用者を誘導して、できる限りトイレでの排泄支援に努めている。また、利用者の状態に合わせてリハビリパンツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなどの対応をしている。2か所あるトイレは、車いすでもゆとりをもって使用できる広さが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無を日々確認し、水分量や食事量などに気を着けている。適度な散歩や腹部マッサージも行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の体調も考慮し、希望に応じて入浴できるよう心掛けている。無理強いすることなく、その日の気分に合わせて日程変更している。	
			(外部評価) 週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴できるよう対応している。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、無理強いせずに気持ち良く入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制での介助や同性介助の希望に対応するなど、安全に入浴できるよう配慮している。また、リフトも設置されているが、現在使用している利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣を把握したうえで状況に応じ、1人の時間も大切にしている。生活環境の整備や照明の調節等に気を配り、十分な睡眠や休息がとれるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は服薬の目的や副作用について理解しており、利用者の経過や変化を観察し、医療との連携により体調管理に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味等を本人・家族から聞き取り、把握するように努めている。気分転換になるよう行事や外出など利用者の希望も取り入れ実施している。家事に関しても一緒にできることを行ってもらい、役割をもつ事で張りのある生活ができるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員の同伴にて買い物や外食に出かける機会を設けている。外出が困難な利用者には中庭に出る等、外気に触れる機会を持てるよう工夫している。また家族の協力により自宅への帰宅も行っている。 (外部評価) 日常的に中庭にあるテラスで外気浴が行われている。併設されている診療所の理学療法士が訪問し、リハビリを兼ねて事業所周辺を散歩したり、デイケアに行けるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、買い物や外食など、少しでも多く出かけられるよう支援している。診療所の入っている建物の屋上で花火見学したり、お弁当を持って外出し、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の能力に応じて、お金を所持されている方もおられる。買い物にでかけた際には個々の利用者が支払いをするように配慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 状況に応じて、家族に電話できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 中庭に季節の花を植え、利用者と水やり等の世話をすることで居心地の良い空間の1つとなっている。共有のスペースには写真を飾ったり生活感のある雰囲気がだせるよう心がけている。光や室温、温度等十分配慮し、居心地の良い空間作りを行っている。</p> <p>(外部評価) 大きな窓から自然な光が差し込んでくる。床暖房が整備されており、冬でも暖かく利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮されている。リビングの天井は高く、開放感がある。壁には外出時の写真や季節の作品、園児からのお礼状が飾られている。また、整理整頓された空間にはソファが置かれ、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 外出時の写真を飾ったり、1人でソファで過ごしたりと共有空間でも思い思いの過ごし方が出来る様家具の配置等工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 写真を飾ったり、自宅から馴染みのある家具等を持ち込んでいただき、懐かしい雰囲気を作り、本人と相談しながら居心地の良い空間となるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドやタンス、洗面台、エアコンが備え付けられている。居室にはテレビや冷蔵庫など思い思いのものを持ち込み、孫の写真や生花を飾るなど、利用者一人ひとりの個性のある居心地の良い空間づくりをしている。以前は位牌を持ちこまれている利用者もいた。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各部屋の入口にプレートを貼り、利用者が認識できるようにしている。利用者の心身の状態に応じ、居場所の選定も行い、なるべく自立した生活が送れるように支援している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医)さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 7 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するとの意見をよく聞きます。立地条件も良く、中庭にてゆっくりと過ごすこともできます。花を植えて、利用者様と一緒に水をあげたり、世話をしながら節感を味わっています。お花見や夏祭り・クリスマス会等季節ごとの行事を行っており、ご家族様も参加していただき、楽しい時間を過ごせるように努めています。イベントはご利用者様・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。消防訓練も定期的に行っており、ご家族の参加や近隣の方へ協力をお願いしています。医療機関の併設でもあり、ご家族様からは高い安心感を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には、診療所と小規模多機能型居宅介護、通所リハビリテーションが併設しており、近隣には愛媛大学医学部附属病院やスーパーなどがあり、散歩時に買い物にも行けるなど生活するには最適な立地に恵まれている。母体の診療所と24時間体制で連携が取れており、利用者の健康管理や看取り支援、緊急時の対応など、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。管理者と職員との意思疎通が図れ、事業所は明るく感じられ、笑顔で穏やかに過ごせるようサービスの向上に努めている。また、職員教育にも力を入れ、外部研修に参加したり勉強会を積極的に開催したりするなど、さらなる質の向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) やまぶき

記入者(管理者)

氏名 武田 淳子

評価完了日 26年5月31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「優しい介護」「温かい家庭的な」「ご利用者の立場」の理念のもとその人らしい生活が出来るように支援している。またいつでも確認できるように掲示し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初に作成した理念を大切に、事業所内に大きく掲示して朝礼時などに唱和し、職員全員で共有している。理念のほか、法人の理事長が毎年目標を作成している。ミーティング時などに職員間で理念が実践できているか振り返り、職員は思いやりを持ち、利用者の立場に立って考えたサービスが提供できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の小・中学校の運動会や文化祭の参加をはじめ、幼稚園の定期的な訪問・地域のボランティアの受け入れを行うことで、地域とのつながりに努めている。</p> <p>(外部評価) 定期的に事業所には幼稚園児の訪問があり、調査日にも七夕飾りを持って園児が訪れて歌を歌い、利用者や握手を交わしながら交流をするなど、利用者の嬉しそうな笑顔を見ることができた。小学校の運動会の玉入れに参加し、交流をしている。日頃から演奏やおどりなどのボランティアの訪問が頻繁にあり、交流を深めている。また、毎月発行する「菜の花だより」を商店や学校など地域に配布し、事業所が地域住民に認知されるよう努めている。</p>	幼稚園や小学校などのつきあいは盛んに行われているが、近隣住民にも目を向け、さらに事業所に気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築いていく取組みを期待したい。また、地域に「菜の花だより」を配布するのと一緒に、運営推進会議等にも参加協力を呼びかけるなど、地域住民との繋がりや交流のきっかけになることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 月に1回新聞(菜の花便り)を作成し、家族や地域の方に配布している。新聞には認知症に関する内容を盛り込み、理解が得られるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 日常生活の様子や事業所での取り組み内容等を報告し、情報交換を行っている。サービス内容に関しての意見は可能な限り取り入れるようにし、利用者が楽しく生活できるように努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地元企業の社長、元教育長、市担当者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、併設されている小規模多機能型居宅介護と一緒に開催している。会議では事業所の活動や課題等を報告し、参加者と意見交換をしている。また、病気やリハビリの勉強会と一緒に開催する工夫をしており、参加者から好評を得ている。参加者に意見をもらいながらサービスの質の向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃から事業所の実情を伝え、相談している。意見を取り入れることで、協力関係の構築に努めている。運営推進会議にも参加してもらっている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告をするほか、利用者やヒヤリハットの相談をするなど、良好な関係を築いている。また、市や地域包括支援センター主催の研修等にも積極的に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) マニュアルの作成や勉強会の参加をし、正しく理解するように努めている。必要であれば家族・利用者に同意を得て行っているが、身体拘束をしないケアをめざし、職員で話し合いを行っている。安全上外玄関の施錠のみ行っているが、家族・利用者には理解していただいている。	
			(外部評価) 身体拘束等のマニュアルを作成し、職員はミーティングなどで話し合い理解して、利用者に寄り添い見守りをしながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全面や衛生面を考え、不潔な行為などが見られる場合には、医師から説明を行い同意を得て行うようにしている。言葉での拘束にも気を配り、職員全員で意識しながら適切な対応ができるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルの作成や勉強会に参加し、フィードバックすることで全職員が正しく理解するように努めている。利用者の精神面や身体状態を把握し、申し送りを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) マニュアルや研修を通じて、全職員が理解し、活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には利用者・家族に対し、十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で行っている。改定等の際も十分に説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議での意見交換や意見箱の設置等により、家族や外部の意見を取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議への参加時に、利用者や家族は思いや意見を伝えることができる。面会時に家族に声をかけ、意見や要望を聞くよう努めている。遠方の家族には「菜の花だより」に手紙を添えて利用者の様子を報告したり、電話して意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎日の申し送りや月1回のミーティングなどで話し合い、職 員の意見を聞き入れることができるような機会を設けている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングで管理者は職員の要望や意見を聞くよう 努めている。勤務時間やおやつ作りなど活発な意見や要 望が出され、その都度対応するよう努めている。管理者は 職員の意見を尊重し、働きやすいシフト組みをするなど職 員とコミュニケーションを図りながら職場の環境整備を大 切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 個々の面接等を行い、職員の意見も取り入れ、職場環境の 整備に努めている。朝の申し送りを代表者が直接行うこと で、職員個々の状況を把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会の1年間の計画をたて、すべての職員が研修を受ける 機会を確保できるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の医療機関開催の勉強会への参加や市町村や地域包括 の開催する連絡会への参加にて交流の機会をもうけ、情報 交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の話をじっくり聞き、職員の態度や対応には十分配慮 しながら、安心感がもてるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事業所見学の段階で不安なことや要望等を聞き、助言や提案を行い、安心していただけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の話を聞き、アセスメントを行ったうえで必要としている支援を見極め、医療・福祉においても連携が図れるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人のできる事をしてもらい、支え合い生活することで、信頼関係が築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 菜の花便りや現況報告書を送付し、本人の生活状況を伝え、協力を求めることで、共に本人を支えるよう関係作りを築けるよう努めている。イベント開催時には家族にも積極的に参加してもらえよう声掛け等行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の馴染みの方や場所を把握して、外出支援を行ったり、面会しやすい雰囲気作りに配慮している。 (外部評価) 親戚や友人、近隣住民などの訪問が頻繁にあり、職員は快く出迎えている。利用者の希望に応じて、馴染みの店へ買い物や外食などに出かけられるよう支援している。また、馴染みの美容室に訪問してもらったり、タクシーを呼んで美容室に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の性格を把握し、感情や価値観を尊重しながら、利用者同士のコミュニケーションが図れるよう配慮し、助け合いながら生活できるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も母体となる医療機関を利用されている家族も多く、本人の状況について話を伺い、相談等行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴や環境を把握し、出来る限り希望に沿った生活が出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりと向き合いながら、日常会話や表情、動作からくみ取り、思いや希望を把握するよう努めている。利用者は職員と1対1となる入浴時や居室で思いを言われることが多く、新たに知り得た情報は申し送り等で報告し、職員間で共有できるようにしている。毎月の職員会議で職員全員で話し合い、思いや要望に沿った利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 今までの生活歴や環境等について本人・家族・知人から聞き取りを行い、情報を共有し、把握するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 定期的にアセスメントを行い、心身状態を把握している。日々の申し送りにて利用者に変化があった時に対応出来る様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の希望や意向をなるべく取り入れ、その人らしい生活が継続出来る様、関係者と話し合い、作成している。	
			(外部評価) 利用者が自分らしく暮らせるよう利用者や家族の意向を反映して、介護支援専門員と利用者毎の担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。介護計画は家族等に説明し同意を得ている。毎月モニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大切にして、介護計画がより良いものになるよう努めている。また、必要に応じて見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 観察記録を細かく記録するよう心がけ、気付いたことや変化があれば、その都度話し合いを行ない、実践している。ミーティングにて職員間で情報の共有を行ない、介護計画に反映している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状態に応じ、同法人内の小規模多機能居宅介護事業所や介護療養型医療施設への移行をはじめ、他サービスにもスムーズに移行出来る様、医療・福祉サービスとの連携に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の祭りや小・中学校の運動会、文化祭の参加をはじめ、幼稚園の定期的な訪問・地域のボランティアの受け入れを行うことで、地域とのつながりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居時に、希望を伺い、かかりつけ医と主治医の確認を 行っている。主治医は、母体である医療機関を希望される 方が多い。専門の医療機関の受診が必要な場合は家族の協 力も仰ぎながら適切な医療が受けられるよう支援してい る。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう 支援している。往診や緊急時に迅速に対応してもらえら ることから、利用者や家族が希望して母体の診療所をかかり つけ医へ変更することもある。週1回の往診や必要時の訪問 看護があり、急変時などにも対応ができる協力体制が整っ ている。また、歯科や皮膚科の往診もある。専門医も職員 が同行して受診することができ、安心して事業所を利用で きるよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎朝、利用者の状態について報告を行い、相談し、必要な 看護や医療が受けられるよう支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	<p>(自己評価) 他病院への入院・退院の際も面会やカンファレンス等によ り情報交換に努めている。近隣の病院で実施される勉強 会には参加するようにし、関係作りを行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化対応・終末期ケア対応の指針を作成しており、入居 時に説明し、方針を共有するように努めている。緊急時 には主治医の判断にて他病院も含めた入院の措置をとるこ とも理解してもらっている。</p> <p>(外部評価) 「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成している。母 体の診療所と24時間体制での連携が取れているほか、訪問 看護を利用することができ、積極的な看取り支援に組み 入れている。利用者の状況の変化に応じて、利用者や家族等 の意向をその都度確認しながら、思いを受け止め納得のい く穏やかな最期を迎えられるよう支援している。また、看 取りなどの勉強会を開催し、職員への不安解消と意識向上 に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応について、内部で勉強会を実施している。外部の講習会にも参加し、ミーティングにてフィードバックしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を実施している。地域の方にも協力を呼びかけている。 (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練では、実際に利用者も参加し避難している。定期的に防災器具の点検や使用方法、避難場所を確認するなど、職員の災害への意識づけをして防災意識を高め、利用者の安心安全な生活を守るよう災害対策に取り組んでいる。また、食料等の備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いには十分気をつけている。訪室の際には、必ずノックや声かけを行い、プライバシーが保たれるよう配慮している。 (外部評価) 利用者の尊厳を損なうことのないよう不快な声かけや入浴時などの羞恥心に気を配り、一人ひとりの人格を尊重した対応をするよう心がけている。特に居室は、利用者のプライベートな空間であり、入室時等にも気を配っている。また、職員には守秘義務の徹底を図り、書類等の管理にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 仕草や表情を見極め、本当の思いをくみ取るよう努めている。自己決定できるよう、本人のペースにあわせ時間をかけて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせ、本人の希望も取り入れながら過ごせるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 生活のメリハリがつくよう、起床時や就寝時には着替えをしてもらっている。外出の際には普段とは違った服装をする等おしゃれができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを知り、声かけしながら楽しく食事ができるよう努めている。自力摂取ができるよう食事形態に配慮し、出来ない部分を手伝うようにしている。	
			(外部評価) 母体診療所の栄養士が献立を作成し、利用者の健康管理をしている。行事のある場合は利用者のリクエストを聞き、好みのメニューを提供するようにしている。回転寿司やモーニングなどの外食に出かけ、食事が楽しめるよう支援している。現在は、食事介助が必要な利用者が増えてきたが、できるだけ職員は利用者と一緒に食事を食べるよう心がけている。また、利用者は食事の準備や片付けなどできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスや必要なカロリーは摂取できるよう栄養士が献立を考えている。食事のメニューを変えられる利用者もあり、これまでの生活習慣に合わせるよう努めている。必要な水分摂取が確保できるようゼリーにしたり、飲み物を変えたりしながら、摂取できるよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 見守り・声掛け・介助等本人の力に合わせ、必要に応じたケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄が利用者にとって良いということを職員が理解し、利用者の負担にならない程度でトイレで排泄できるよう努めている。	
			(外部評価) 排泄チェック表を利用して、利用者一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。日中は利用者を誘導して、できる限りトイレでの排泄支援に努めている。また、利用者の状態に合わせてリハビリパンツを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなどの対応をしている。2か所あるトイレは、車いすでもゆとりをもって使用できる広さが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無や水分摂取・食事量について把握し、身体を動かす機会を設けたり、腹部マッサージを行うなど便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望やタイミングに合わせ、入浴日の変更を行うこともあり、柔軟な対応ができるよう努めている。	
			(外部評価) 週2～3回を基本として、利用者は入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴できるよう対応している。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し、無理強いせずに気持ち良く入浴ができるよう支援している。利用者の状態に合わせて、2人体制での介助や同性介助の希望に対応するなど、安全に入浴できるよう配慮している。また、リフトも設置されているが、現在使用している利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活リズムに合わせ、室温や環境にも配慮しながら、安心して生活できるよう努めている。夜間不眠傾向のある方には、日中の過ごし方に気を配り、安眠できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬情があり、いつでも確認できるようになっている。職員は薬の副作用や種類について把握し、症状に変化があった場合には医師に相談し、連携を図っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみや花の水やりや庭の草引き等出来る事を手伝ってもらっている。遊ビリや行事(花見・夏祭り・クリスマス会など)外出など行い、気分転換を図れる機会をもうけ、楽しんでもらえるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物等出かける機会を作ってもらおうよう家族にも協力してもらっている。地域の方の協力もあり、地域の行事(運動会・祭り)には参加している。 (外部評価) 日常的に中庭にあるテラスで外気浴が行われている。併設されている診療所の理学療法士が訪問し、リハビリを兼ねて事業所周辺を散歩したり、デイケアに行けるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、買い物や外食など、少しでも多く出かけられるよう支援している。診療所の入っている建物の屋上で花火見学したり、お弁当を持って外出し、気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族とも連絡を取り合い、本人の能力に応じ、所持・管理している方もおられる。希望があれば買い物に行く機会を作り、本人に支払いを行ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の能力に応じ、希望があれば本人自らが電話をかけられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごせるよう適度な飾り付けや季節感を感じる花を飾るなど工夫している。また朝・昼・夕と時間を認識してもらえよう照明の明るさを配慮している。	
			(外部評価) 大きな窓から自然な光が差し込んでくる。床暖房が整備されており、冬でも暖かく利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮されている。リビングの天井は高く、開放感がある。壁には外出時の写真や季節の作品、園児からのお礼状が飾られている。また、整理整頓された空間にはソファが置かれ、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者が居心地良く楽しく過ごせるよう場所作りに工夫している。気の合う同士で過ごされる方、一人で過ごされる方が同じ共有の空間で過ごせるよう家具の配置にも気を配っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者にとって居心地良く安心して過ごせる空間となるよう馴染みの物や思い出の写真を飾ったり、入居してからの写真も飾るなどして、生活感が出るよう工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッドやタンス、洗面台、エアコンが備え付けられている。居室にはテレビや冷蔵庫など思い思いのものを持ち込み、孫の写真や生花を飾るなど、利用者一人ひとりの個性のある居心地の良い空間づくりをしている。以前は位牌を持ちこまれている利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) リハビリ職員との連携を図りながら、出来る事・分かる事等、情報を共有し、環境にも工夫しながら、無理のない自立した生活が送れるよう支援している。	